

フィフティだより

発行 丹波篠山市男女共同参画センター「フィフティ」
☎079-552-1511 / 令和7年10月21日



活躍する女性へ インタビュー

丹波篠山市民生委員
児童委員協議会
会長 泉より子さん



Q1 民生委員・児童委員（以下民生委員）の活動を始めたきっかけは？

民生委員をサポートする協力員をやっていたときに、当時民生委員をされていた方から声を掛けていただき、やることになりました。民生委員になって今年で9年になりますが、6年前からは篠山支部の支部長に、3年前からは市の民生委員児童委員協議会の会長を任せられ、とにかく助け合いの心を大事にして、地域の相談役として活動をしています。

Q2 どのような活動を？

民生委員の主な活動は、一人暮らし

の高齢者の見守り。私は約140世帯を担当しており、なかでも一人暮らしの高齢者世帯は34世帯にも上ります。

私は、一人暮らしの高齢者一人ひとりに、誕生日にはささやかなお花と手紙を届けるようにしています。そのときに元気な様子を見ると安心でき、留守の場合でもポストに入れておく、後からお礼の電話をいただくことがあります。近況を聞き、必要に応じて相談にもつなげています。

また、民生委員の見守り対象には児童も含まれ、担当地域の子どもたちの様子や病気の人がいないかなど、各世帯の状況を常に頭に入れておくようにしています。

Q3 活動の中で心が掛けていることは？

私は、一つの相談に深入りしてしまう傾向があり、また、相談は秘密厳守なので、最初はしんどくなるのが時折ありました。

今は、できるだけ一人で抱え込まず、行政や社会福祉協議会、地域の皆さん、自治会とも相談、連携させてもらいながら活動しています。市の福祉担当者には、これまでどれだけ助けてもらったか分かりません。また、担当地域外のことでも、相談があったときは頼ってもらえることに感謝して、積極的に関わるようにしています。

Q4 これまでの活動の中で、心に残っていることは？

過去に、自分が担当する地域で大規模な火災が発生した際は、被災者の生活支援と精神的なケアが必要で、被災者の不安、悲しみ、喪失感、怒りなどさまざまな感情に寄り添いながら、どうしてあげたらいいのだろうという思いで走り回りました。

被災者の皆さんと今後のことを話し合う場では、涙が出ることも多くありました。今は、高齢のため亡くなられた方もおられますが、それぞれに生活を再建されている様子もうかがえ安堵しています。

Q5 活動への思いややりがい、今後の抱負について

民生委員は人のために動く、非常にやりがいのある仕事。民生委員を経験された方は皆さんそう思っておられると思います。最近では男性よりも女性の委員が多いですが、人生においてもこの経験はプラスになっています。

今年12月には、民生委員改選の時期となり、市全体としても手不足している状況です。地域の見守りや相談、行政へのつなぎ役として、民生委員はなくてはならない存在です。これからも、地域の皆さんに支えていただきながら、自分のペースで活動し、相談者からの感謝の言葉を励みに頑張ります。

男女共同参画センター 催しのご案内

【共通事項】

- 会場=丹波篠山市民センター
 - 申し込み=男女共同参画センター (☎552-1511) へ電話
 - 一時保育=無料、各開催日の7日前までに要申し込み
- ※各事業の詳細については、開催日のおおむね1カ月前にホームページでお知らせします。

要予約

相談

女性のためのチャレンジ相談

再就職や起業、資格取得など、仕事に関する幅広い相談ができます(各回50分)。

- 日時 11月7日(金)
①9:30~ ②10:30~
③11:30~
- 対象 女性
- 講師 飯鉢仁弥さん
(キャリアコンサルタント)



要予約

相談

フィフティカウンセリングルーム

家庭内での夫婦関係や親子関係、職場での人間関係など、さまざまな悩みを女性相談員がサポートします(各回50分)。

- 日時 11月12・27日、12月10・25日、
令和8年1月14・29日、2月12・26日、
3月11・26日
①10:00~ ②13:00~ ③15:00~
 - 定員 各回1人(先着順)
- ※一時保育なし。



要予約

ワークショップ

断捨離~捨てたら手に入るモノ~

やましたひでこ公認の断捨離トレーナーから断捨離の極意を聞き、実践しましょう。

- 日時 12月6日(土)10:00~12:00
- 定員 20人(先着順)
- 講師 松本京子さん
(やましたひでこ公認断捨離®トレーナー)



要予約

連続講座 第6回フィフティ連続ミニ講座

故郷(ふるさと)のはなしをしよう

故郷を離れ都会で暮らす人たち、帰りたくても帰れない事情を抱える人たち、皆さんが思う「故郷」について語り合いませんか。

- 日時 令和8年3月5日(木)
13:30~
- 定員 30人(先着順)
- 講師 中川智子さん



要予約

連続講座 第5回フィフティ連続ミニ講座

わたしの人生はわたしのもの

他人との関係に左右されず、自分自身の軸で生きるためのメッセージをお届けします。

- 日時 令和8年1月30日(金)
13:30~
- 定員 30人(先着順)
- 講師 田上時子さん
(NPO法人女性と子どものエンパワメント関西理事長)



第5回 中川智子アドバイザーの エッセイ

「老老暮らしは家事分担から」

10年ほど前のNHK朝ドラで「ゲゲゲの女房」というのがあった。漫画家の水木しげる夫妻が主人公のドラマだが、この中で印象的だった場面を時折思い出す。

水木しげるさんの母親役の竹下景子さんが夫役の風間杜夫さんに「バシ」と家事を教える。米の炊き方、みそ汁の作り方、掃除洗濯の仕方など、一人になっても困らないようにと厳しく仕込む。

「私は心臓が悪いからあなたよりきつと早く死ぬ。残されたあなたのためを思っていることよ。頑張るんしゃい」と鳥取の境港なまりで演じる竹下さんはとても上手だった。文句を言いながらも洗濯物を干す風間さんの演技も印象に残っている。結局夫が先立つのだが、葬式

の場面で妻がポツリと言う。「私が先に逝くと思っていたから家事を教えたけれど、必要なかったね。かわいそうだったかね」

最近、知り合いの訃報が届くと、あの人の連れ合いは自立した人だったかなあ、と心配になる。家事一切を奥さん任せだった人ほど悲惨な老後が待っている。なにしろ生きる基本を学ぶことをしなかったのだから。

しかし、何とも始めるのに遅いということはない。最近はずいぶん普及し、料理なども教えてくれる。簡単レシピも満載。火を使うのさえ嫌になるほど暑かった今年、私はコールスローサラダとカボチャサラダの作り方をスマホに教えてもらい、いっぱい作ってモリモリ食べて2キロも太ってしまった。炊飯器で肉ジャガができることも知り、早速試してみたら、とてもおいしくできた。

老老暮らしは2人で支え合っていてこそ、互いの存在がよりいとおしくなることだろう。家事を分け合って、仲良く、元気で長生きしてほしい。



ちょこっと相談

子育てのことや家族のことなど、少し話したら気持ちが楽になりますよ。男女共同参画アドバイザーの中川智子さんが秘密厳守で話を聞きます(各回50分)。

- 日時 11月21日、12月12日、令和8年1月16日、2月20日、
3月13日(全て金曜日) ①13:00~ ②14:30~
- 定員 各回1人(グループは3人まで)
※先着順。 ※一時保育なし。

女性に対する暴力をなくす運動 (パープルリボン運動)

毎年、11月12日から25日は、「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。

暴力は、どんな理由があっても決して許されるものではありません。

特に、配偶者や交際相手からの暴力、性犯罪、ストーカー行為など、女性に対する暴力は女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題です。

運動期間中は、全国で女性に対する暴力根絶のための啓発が行われます。

市でも、庁舎をパープルライトアップするとともに、男女共同参画センターで職員手作りのパープルリボンの配布(数量限定)や、啓発ポップの掲示などを行います。ぜひ、気軽にお立ち寄りください。



令和7年度 第1回男女共同参画研修会
講演レポート

「あなたの地域の存続・活性化 ～キーワードは女性・若者～」

7月4日、オフィスEEE(Equity.Empowerment.
Esteem)の中村和子^{なかつまわかしこ}さんを講師に招き、男女共同
参画研修会を開催しました。

1. 人口減少の現状

年間出生数が70万人を割り込みました。120万人の時代から、100万人を切るとあっという間に70万人になりました。空き家は増え、子どもがいる家庭は少なくなってきています。結婚したくない若者が3割、子どもはほらない若者も3割いて、ここをなんとかしないといけません。

丹波篠山市は、消滅可能性自治体にはなっていません。2020年から2050年までの30年間で、若年女性人口の減少率が50%を超えると推測される自治体が該当しますが、丹波篠山市は47.6%でした。平成26年の調査では58%でしたので、人口が増えたわけではありませんが、ここ数年は減少が緩やかになっています。

2. 若い女性が地方からいなくなる

なぜ、女性は地方から流出するのでしょうか。

女性からは、「田舎では夫の収入+妻の収入少しという家計が普通と考えられており、自分の働き方とは違うと感じる」や「田舎は食べ物もおいしいし、自然豊かですが、古い慣習が残っていて息苦しい」、「親戚が集まる宴席では、お母さんやおばさんなどの女性たちは台所に近い席に座り、世話をしている」などの声が聞かれます。自分は母や祖母と同じにはなりたくない。若い女性は、利便性や文化を重要視する傾向があり、地方と都会では、特にインフラとジェンダーギャップの差が大きいと感じています。

3. ジェンダーとアンコンシャス・バイアス

男は仕事、女は家庭という性別役割分担意識は戦後に強化され、その意識は高度経済成長を支え、日本は経済大国になりました。そのため、私たちには成功体験としてすり込まれてきました。

また、ジェンダーは、男性には「もっと強く、たくましく大きく」と、女性には「もっと小さく、控えめに優しく」と、性別による期待がどんどん大きくなります。その結果、あるがままの自分を認めてもらえない状況を作り出し、女性だけでなく男性もしんどい思いをしています。

アンコンシャス・バイアスは無意識の偏見・思い込みのことを言いますが、社会の中にはジェンダーに関しておかしいと思う表現があふれています。例えば、紙おむつのCMには赤ちゃんとママしか出てきません。企業では男性の育児休業が進んでいますが、まだまだ子育ては女性の仕事と見られています。

一方で、高校生を対象としたアンケートでは、「将来パートナーと一緒に家事、子育てをしたいか」との問いに、一緒にしたいと答えた女子が85%であったのに対し、男子は96%が一緒にしたいと答えています。また、男性の育児時間が長くなるほど、2人目の出生率は高くなります。

夫婦どちらかが家事・育児に専念する家庭と、夫婦共働きの家庭はどちらも間違っていないと思いますが、未来に向けてどちらを作り出すかということだと思っています。

4. 防災について

大きな災害が発生すると避難所生活を余儀なくされますが、女性目線の避難所運営が重要です。課題となるトイレは、女性用と男性用を別々に、3対1の割合で、よく見える場所に設置することが推奨されています。隠れたところに設置すると性被害が懸念されます。東日本大震災や熊本地震でも、女性が避難所で性被害にあったことが報告されています。防災に関心を持っている女性や若者はたくさんいますが、実際には避難所運営に関われていません。地域役員に女性や若者がいないからです。女性や若者も運営に関わり、考え、行動していくことが大事で、女性が実行できる機会をつくっていかねばいけません。

また、災害時には自助、共助、公助ということがよく言われますが、共助、地域コミュニティが一番大事です。阪神淡路大震災のとき、北淡町(現・淡路市)では、地震発生後6時間以内に、300人もの生き埋め者を助けることができました。それは、倒壊家屋の中に住んでいた人が家の中のどこにいるのかを地域の人が知っていたからです。

5. まとめ

老々男々で運営されている地域に、女性や若者が参画できたら、どんな地域になるでしょう。女性や若者の参画を進めるためには具体的に何を考えて、何をしていけばいいのでしょうか。

女性や若者は、地域リーダーに向いていないのではありません。ただ、慣れていないだけです。分からないことを理解することができれば活躍することができます。過去にすぎらず、未来をみつめて進んでいきましょう。

